

本校では、東京2020大会後のレガシーを見据えたオリパラ教育の一つとして、「豊かな国際感覚の醸成」を挙げています。世界ともだちプロジェクトで交友のあるロシアの学校に、昨年度まで文通を英語でしていましたが、今年度は1学年の「日本の伝統・文化」の時間に、筆ペンを使った絵手紙を作成し、3学年の英語で書いた手紙を添えて交流を深める計画を立てました。

3月に生徒たち全員が挨拶文（かがみ文）を付けて、送るはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の対応に伴う学校臨時休業の影響で、生徒の代表者が書いたものを送ることになりました。

# 高1・高3 ロシアとの交流

ピスモ

ヴ

ロッシュュー

## Письмо в Россия

— ロシアへの手紙 —



生徒たちの多くは、桜を描きました。しかし、「桜」という漢字をロシアの学校の生徒は読めるでしょうか。



右の作品は「梅にうぐいす」をイメージしたのでしょうか。作品は「桜にうぐいす」になっています。青空にはばたかうぐいすが、日本からロシアに心を込めた思いを伝えているようです。



4枚をつなげると、桜の木ができあがるという作品です。ここにも「桜」の文字があります。「桜吹雪」というイメージがうまく伝わるとよいのですが。